

*** 今日の健康(4月) ***
<帯状疱疹の発症予防に水痘ワクチン(その1)>

50歳過ぎて発症していなければ水痘ワクチン接種が有用

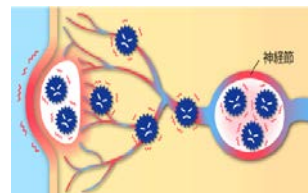
小児を対象に水痘ワクチンが2014年秋に定期接種化されたことにより、水痘患者の減少が見込まれ、水痘帯状疱疹ウイルスへの曝露の機会が減ることで、帯状疱疹の患者が増える可能性が懸念されています。専門家は50歳過ぎて発症していなければ水痘ワクチン接種が有用であり、重篤化しやすい中高年層にも水痘ワクチン接種を勧めています。

帯状疱疹は、過去に感染した水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)いわゆる水痘(みずぼうそう)の再燃により発症する疾患で、VZVに初感染すると水痘として発症し、体内ではVZV特異的細胞性免疫というものが誘導されて、いったん治癒します。治癒と言っても、身体からVZVがいなくなるのではありません。免疫的にVZVを抑え込んでいるだけです。



その際、VZVは血流を介して知覚神経節に侵入し、その後、生涯にわたり神経節にかくれて潜んでいくことになります。そして症状として出ないウイルスの活動を繰り返したり、水痘患者と接触したりすることで自然界から免疫が刺激され、VZV特異的細胞性免疫が活性化し保たれています。

加齢、疲労、ストレスなどがきっかけとなり、VZV特異的細胞性免疫が低下すると帯状疱疹として発症します。



水痘ワクチンの定期接種化により、水痘患者が減ることでVZVに曝露される機会が減少します。その結果、自然界から免疫が刺激されることがなく、VZV特異的細胞性免疫が再活性化せず、免疫が徐々に低下し、VZVを免疫的に抑え込めなくなり、帯状疱疹の発症者が増加すると考えられています。細胞性免疫が低下すると、ウイルス量が増えやすくなるため、痛みや感覚異常が長期間残る帯状疱疹後神経痛を発症しやすくなるとの報告もあります。

帯状疱疹の症例では、多くの場合痛みは皮疹の治癒に伴い軽減しますが、高齢者では帯状疱疹後神経痛を来すことが多く、その他、三叉神経第1枝領域に帯状疱疹が生じた場合は眼合併症を、耳介部に生じた患者では顔面神経麻痺・難聴・めまいなどを来すハント症候群を生じます。また、まれに髄膜炎や脳炎を合併することが知られています。

記事紹介 2015.2月号日経メディカル

東京慈恵会医科大学皮膚科学元教授本田まりこ(まりこの皮膚科、横浜市鶴見区)

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏

*** 今日の健康 (5月) *** < 帯状疱疹の発症予防に水痘ワクチン (その2) >

米国では帯状疱疹が増加傾向

1996 年から小児に対する水痘ワクチンの定期接種が行われている米国では、水痘の患者数や死亡者数、合併症例は減少したものの、水痘の自然流行が起こらなくなり、VZV 特異的細胞性免疫が再活性化せず、その結果水痘帯状疱疹ウイルス (VZV) が再活性化することで帯状疱疹を生じる患者が増えつつあります。

今後、さらに帯状疱疹の発症者が増加する可能性を危惧し、米国では米食品医薬品局 (FDA) が 60 歳以上を対象とする帯状疱疹ワクチンを承認しました。

2008 年には米国予防接種諮問委員会 (ACIP) が、免疫抑制状態になく、帯状疱疹を発症していない 60 歳以上の高齢者に対するワクチン接種を推奨しています。

欧州でも同様の理由から、2006 年に欧州医薬品庁 (EMA) が 50 歳以上を対象とする帯状疱疹ワクチンを承認しました。



その決定の根拠となったのが、1998 年 11 月から 2004 年 4 月まで、60 歳以上の 3 万 8546 人を対象に帯状疱疹ワクチンの効果を検討した二重盲検無作為割付比較対照試験の結果で、日本で開発された Merck 社の水痘ワクチン「Varivax」接種群と偽薬を接種した対照群で、帯状疱疹の発症頻度、重症度、帯状疱疹後神経痛の発症頻度などを検討しました。

平均追跡期間は 3.13 年で、その結果、帯状疱疹の発症率はワクチン接種群が 1000 人年当たり 5.42、対照群は 11.12 で、ワクチンの接種が発症を 51.3% (44.2-57.6) 抑えることが明らかになっています。また、ワクチン接種群 27 人、対照群 80 人が帯状疱疹後神経痛を発症し、その発症率は 1000 人年当たり 0.46 人と 1.38 人で、接種により発症率は 66.5%減少しました。

国内でも、水痘ワクチンを 50~79 歳の 129 人に接種したところ、VZV 特異的細胞性免疫が有意に高くなったとの研究結果が示されています。(Takahashi M, et al. Vaccine. 2003;21:3845-53)

水痘ワクチンの有効性を示すデータが示されたことから、国内で接種されている乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」の添付文書にも、接種対象として小児以外に「水痘に感受性のある成人」が追加されました。具体的には医療関係者、医学生、水痘ウイルスに対する免疫能が低下した高齢者、成人女子 (妊娠時の水痘罹患防止のため) が加えられています。

「現時点では帯状疱疹予防を目的とした国内の治験結果が示されていないので、このような記載となっています、高齢者への水痘ワクチンの接種は実質的な帯状疱疹予防になる」とされています。

記事紹介 2015.2月号日経メディカル

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏

*** 今日の健康(6月) *** <帯状疱疹の発症予防に水痘ワクチン(その3)>

水痘ワクチンの安全性

帯状疱疹は年齢が高くなり、VZV 特異的細胞性免疫が低下している人ほど発症しやすく、帯状疱疹後神経痛も重篤になりやすい。「生活に支障を来すこともあるので、50 歳以上で帯状疱疹を未発症の人には積極的に接種を勧めています。

東京慈恵会医科大学皮膚科学元教授本田まりこ（まりこの皮膚科、横浜市鶴見区）

水痘ワクチンは、悪性腫瘍や免疫抑制剤使用など細胞性免疫の機能低下があるハイリスク児の発症予防を目的に開発されたもの。生ワクチンだが、安全性も折り紙付きです。「既に健康な小児には定期接種化されており、接種後の副反応の報告も軽微なものがほとんど」と藤田保健衛生大学小児科主任教授の吉川哲史氏は話しています。



接種による水痘の発症はまれ

安全性の高いワクチンではあるが、免疫抑制剤の使用者やヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染者など、「免疫機能に障害のある人への接種は十分に注意して行う必要がある」と吉川氏。万が一、ワクチン接種により水痘を発症した場合、水疱が現れるのは接種から 1~2 週間後だ。発症したとしても、抗ウイルス薬で治療ができる。「接種する際には念のため、接種後に水疱が現れたら来院するよう伝えている」と本田氏は説明する。

とはいえ「ワクチン接種により、水痘を発症するケースはごくまれだ」と本田氏。

前述のように、厳密に言えばこのワクチンは帯状疱疹予防に適応があるわけではない。そのため、阪大微生物病研究会理事長の山西弘一氏は、「水痘ワクチンの帯状疱疹予防への適応拡大をできるだけ早い時期に実現したい」と話している。

帯状疱疹の発症率はワクチン接種群が 1000 人年当たり 5.42、対照群は 11.12 で、ワクチンの接種が発症を 51.3% (44.2-57.6) 抑えることが明らかになっています。

また、ワクチン接種群 27 人、対照群 80 人が帯状疱疹後神経痛を発症し、その発症率は 1000 人年当たり 0.46 人と 1.38 人で、接種により発症率は 66.5%減少しました。

記事紹介 2015.2月号日経メディカル

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏